

—— 星空の想像力(2) —「宮沢賢治<sup>そら</sup>の宙」——

GOTO

その列車は、  
星屑を縫うように走った。

夜空にたなびく天の川を見て、あなたは何を思い描くでしょうか？ その姿は古くから人々の想像力を掻き立て、こぼれたミルク、鳥の道、天の背骨などに見立てられてきました。明治・大正時代、岩手県花巻に住むひとりの作家が思い描いたのは、一本の線路。はくちょう座から南十字星に達する“銀河鉄道”でした。その作家、宮沢賢治は花巻から見ることのできない南の星々まで想像し、物語を紡いだのでしょう。五藤光学研究所のハイブリッド・プラネタリアム“ケイロンⅢ”は、より本物に近い星空を追求し、天の川を約1億個の微恒星で描きます。さらに等級差可変機能を備え、恒星の固有の色や季節によって異なる星の瞬きまで再現し、情感あふれる世界に誘います。美しく詩情豊かな星空は、名作を生む想像力の宝庫。最先端のプラネタリアムが、人々の想像力を刺激しています。



銀河鉄道の路線は  
こちらから

\*「ケイロンⅢ」の星空  
(府中市郷土の森博物館で撮影)



株式会社 五藤光学研究所

〒183-8530 東京都府中市天崎町4-16 ☎042(362)5311

<https://www.goto.co.jp/>

定価733円 本体667円

雑誌 06407-9